

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	＊	＊	＊
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・9月の大型連休は、地元客と大幅に増えた県外からの観光客によって、商店街が大いににぎわった。ただし、客の多くは地方観光やイベント、物産展、地元グルメ等が目的のため、商店街の物販店での買物は少なかった。
	○	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数が増加し、客単価も上昇しつつある。
	○	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は台風などによる雨の被害の影響が少なかった。また、気候が秋めいてきたことから単価の高い季節商材が売れ始め、前年と比べると比較的良好い。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏休みシーズン及び9月の大型連休に来客数が増加した。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・9月の大型連休は、帰省した客が多く来店した。旅行などに行く客が少なかったため、サロンへの来客数が増加したとみられる。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・売上は、2～3か月前と比べると少し増加しているものの、前年と比べると変わらない。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・小規模の祝いをする客が増加しているため、高額ではない贈答品がよく売れている。
	□	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・食品や日用品に関しては売上金額、売上点数共に前年より若干マイナスだが、食品を中心とした催事は好調である。メリハリのある消費が続いている。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・相次ぐ商品価格の上昇により、買上点数の減少傾向が続いている。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・米の単価の下落が大きいものの、他の商品の価格上昇分で帳消しになっている。前年より来客数が減少していることが売上に影響している。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・物価上昇に起因する生活防衛意識により、節約志向は顕著になっている。
	□	スーパー（財務担当）	単価の動き	・単価の上昇により、大きく売上が増加している。
	□	スーパー（人事）	お客様の様子	・前半は雨がが多く客足が鈍かったが、9月の大型連休は天気にも恵まれ、人の動きが多かった。
	□	スーパー（統括担当）	お客様の様子	・物価高にもかかわらず、購入単価は余り上昇していない。この傾向は、今年に入ってから変わっていない。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が減少し、インフレによって単価が上昇している。コンビニで買物ができない、又はしない人が増加しているとみられる。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・肉に続いて、野菜の価格も上昇している。米の価格は落ち着いたものの、商品価格への反映に時間差がある。
	□	コンビニ（総務）	販売量の動き	・売上は、前年比100%を何とか維持している状態である。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は、前年と比べて減少しており、悪い状況が続いている。また、来客数そのものも減少しており、物価高の影響で購買意欲が低い。
	□	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・主要商品では、前月に引き続きテレビ、冷蔵庫が前年比120%で推移している。また、2027年末の蛍光灯の製造終了に伴い、シーリングライトも前年比160%で推移している。
	□	乗用車販売店（役員）	単価の動き	・車の購入価格に大きな変動はない。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・10月初旬の秋祭りの影響に加え、ビール等の価格改定もあるため、商品がかなり売れている。

	□	その他小売 〔ショッピング センター〕（館 長）	来客数の動き	・来客数は引き続き好調を維持し、前年を10%程度超えて推移している。特に、9月の大型連休の入館、集客が好調で、飲食や土産の売上が大きく増加した。
	□	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・売上や来客数は前年と比べてほぼ横ばいである。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・9月の大型連休は、ホテルまで乗車する県外の客が多かった。
	□	通信会社（営業 部長）	来客数の動き	・来客数の減少傾向が続いているため、景気は変わらないとみられる。
	□	観光遊園地（主 幹）	来客数の動き	・前年と比べて来客数の推移に大きな変動はなく、前年を上回る状況が続いている。
	□	美容室（経営 者）	来客数の動き	・9月の大型連休は人の動きがあったが、それ以外は変わらない。
	□	設計事務所（所 長）	販売量の動き	・大手ゼネコンからの設計依頼が増加している。
	▲	商店街（代表 者）	それ以外	・物価の上昇を少しずつ感じるようになってきた。ネットで商品を購入する傾向が更に高まり、大型店舗でも売上の実質伸び率は、横ばいから右肩下がりになっているとみられる。
	▲	商店街（代表 者）	単価の動き	・土日を中心に、9月の大型連休は大変な人出でにぎわった。しかし、自己防衛意識の高まりにより客単価、購入量ともかなり抑えられている。
	▲	商店街（代表 者）	お客様の様子	・為替変動や燃料価格の上昇による物価高の影響で、客の消費意欲が低下傾向にあるとみられる。また、客の行動意欲も低下気味で、難しい状況が続いている。
	▲	一般小売店 〔酒〕（経営 者）	販売量の動き	・飲食店用や家庭用の売上が低迷したままである。アルコール飲料離れの影響や家計の節約により、消費者は節約傾向にある。
	▲	一般小売店〔書 籍〕（営業担 当）	販売量の動き	・店頭売上はプラスで、外商売上はマイナスとなった。全体ではマイナスだったが、支出は経費を削減した効果が出たため、収支はプラスの結果が出た。
	▲	コンビニ（店 長）	来客数の動き	・来客数の減少に歯止めが掛からない。9月の大型連休のみ改善したが、その後は再度減少した。
	▲	家電量販店（店 員）	販売量の動き	・季節商材の需要が落ち着き、他の商品も売上が減少している。また、ついで買いや衝動買いも減少している。
	▲	乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・車両価格や附属品の価格が年々上昇していることに加え、日常生活に必要な商品の価格上昇もあり、支出の負担を感じて買換えを慎重に考える客が増加した。
	▲	都市型ホテル （経営者）	販売量の動き	・宿泊需要は堅調若しくは好調であるが、地元の宴会需要は低調である。
	▲	旅行代理店（部 長）	販売量の動き	・物価の上昇や賃金の伸び悩みに加えて、し好が多様化したことによる若年層の旅行離れや、介護等の理由による高齢層の旅行需要の陰りがみえる。
	×	*	*	*
	◎	－	－	－
企業 動向 関連 (四国)	○	食料品製造業 （商品統括）	受注価格や販売 価格の動き	・為替変動の動向により、食品を含め、輸入品の価格が低下する傾向にある。今後、値上げ圧力が低下する可能性が大きいとみられる。
	○	繊維工業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・災害や天候不順の影響があるものの、全体としてはインバウンドの増加で受注が順調に推移している。ただし、インバウンドの影響が少ない小売店は、良くないとみられる。
	○	木材木製品製造 業（営業部長）	受注量や販売量 の動き	・受注量が増加している。今後もこの状況が継続する見込みだが、長雨の影響で工事が遅れているとの情報もあるため、先行きは不透明である。
	□	輸送業（経営 者）	取引先の様子	・為替の動向に不安があるが、おおむね変わらないとみられる。
	□	通信業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・実績は、計画どおり堅調である。
	□	金融業（副支店 長）	取引先の様子	・客の状況等に、大きな変化はない。

	□	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・土地の売買をする際、価格の低いものしか売れない。事業用の大型の土地や収益用一棟マンションの商談が少ない。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・公共事業のコンサルタントをする中で、財源がないという理由から受注につながらないことが多い。
	▲	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・資材価格や人件費の上昇が利益を圧迫してきている。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・省庁を中心に公共事業が非常に少ない。
	▲	広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・10月に用紙の最大15%の値上げが控えている。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・人件費や物価の上昇を売上に転嫁できていないところが多く、利益が圧迫されている。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	求人数の動き	・求人数に大きな変化はなく、就業人数も微増である。
雇用 関連 (四国)	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者の動きが、人材ビジネスの景気に左右されている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・大きな変化はないが、求人数のトレンドや動きがピークよりやや落ち着いてきた。
	▲	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・周辺企業では、建設、介護、飲食などを中心に深刻な人手不足が常態化しており、受注機会の損失や人件費上昇が企業の収益を圧迫しているという声を多く聞く。その他の職種でも人手不足は継続しており、案件はあるが採算確保と人員手配の難航が頻発している。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・現状としては、それほどひどくないと話す企業もあるが、3か月前の想定と比べると徐々に下がってきている。下げ止まっている印象を受けている企業もあった。
	▲	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・製造業などで技術職の求人数は十分にあるものの、事務職の求人数は減少傾向が強く、求職者数は苦戦している。
	×	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・各企業から、材料費等の上昇によって自助努力だけではどうしようもなくなり商品に価格転嫁したという話や、その後の動向が気になるという話を多数聞いた。